

令和5年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和5年7月26日（水）10時00分～12時05分
開催場所	横浜市役所17階共用会議室S01
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、治田委員、日沼委員、 簗谷委員、山口委員、恵良氏
欠席者	なし
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 (1) 令和4年度事業評価について (2) 旧第一銀行横浜支店の運営団体公募について 2 その他
決定事項	
事務局	<p>【開会】 ○令和5年度第1回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【挨拶】 ○にぎわいスポーツ文化局文化芸術創造都市推進部長から挨拶が行われた。</p> <p>【事務局紹介】 ○人事異動に伴う事務局紹介が行われた。</p> <p>【資料確認】 ○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】 ○委員9名中9名（うち4名、オンライン）が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項（2）については、同条例第7条第2項に基づき非公開とすることについて、了承。</p> <p>1 審議事項（1）令和4年度事業評価について ＜事務局より説明が行われた。＞</p>

		【質疑応答・意見交換】
日沼委員		○改めて今日、全体の拠点の活動を眺めて、本当にこの長い間培ってきたノウハウや成果が出てきていることがある一方で、全体的に閉塞感を感じるというか、継続が最優先事項になっている印象を持っている。もちろん拠点を運営すること自体が次の世代につながることになるわけだが、パンデミックの3年間を経て、いろいろな価値が動き出しているときに、思い切った変化が人材も含めて必要になってきている。本当に過渡期なのではないかと思っている。 そのため、どうやったら未来志向で活性化していけるのかということを実際に考える時期になったのではないかというのが、全体を通しての印象。
事務局		○御指摘いただいたように、次の時代に合う形で、これまでやってきたことのいいところは生かしつつも、ドラスティックに変えないといけない、今、正にそういう時期に来ていると思っており、庁内でもそういったことを議論している。局が新しくなり、創造都市として何を求めていくかということも再定義しながら、拠点の在り方も考えたいと思っている。
菅野委員		○局あるいは庁内の体制が変わってくると、基本方針となる目的も、当然変わってくると思う。今後、創造都市というキーワードが引き継がれていくのか、あるいは新しいコンセプトを作っていくのか、そういった全体の方針とも関わってくると思うが、やはり全体の見直しがあり、それに伴って評価項目も少しずつ変化していくのではないかと推察するが、そういったことも踏まえ、これから評価や事業全体を考えていく必要があるのではないかと。
事務局		○ここ10数年施策を推進してきたが、創造都市が目立ったわけでもないというのが、庁内の受け止めも含めた正直なところ。創造都市をどう考えていくかということ、コンセプトをきちんと変えていく必要があると思っている。 それを今、正に庁内で検討している中で、拠点の評価も別々にセグメントしてやっていくことがいいのかと、問題意識を持っている。もう少し委員会の在り方も含めて考え方を議論したほうがいいのではないかと、庁内で議論をしている。その中で、各委員も同じような疑問を持っていらっしゃるということが今日分かった。創造都市を横浜の将来の発展につなげていく観点で、相談させていただければと思う。
野原委員長		○評価自体の在り方、この委員会の在り方が変わるかもしれないということか。
事務局		○新しい価値の中で、創造都市として進めていくべきところが変わると、それに伴い評価のやり方についても変わるのではと思う。
野原委員長		○それ自身は今後の委員会での議題になるということか。

<p>事務局 野原委員長</p>	<p>○庁内での検討結果を踏まえ、案を作り、御相談していく。</p> <p>○一方で、各分科会で丁寧に議論を積み上げ、評価をいただいているので、委員会でも安心して評価できているという実態がある。その辺りも含め、改めてこの評価自体を評価するということをしていただくのが良いと思うし、変わるところと、やはり変えてはいけないところもあるので、どこが骨で残る部分で、どこが次世代を見つめて変えていくべき部分なのかということも併せて検討いただき、方針の大きな方向性や骨格を決める必要があると思うので、それはゆくゆく議論されるという理解でよろしいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>○庁内からは、創造都市の取組が、特定の人のためにやっているのではないかという見られ方をしており、そういった中で、特定の人向けにやりながらも、一般の方々にとって波及効果があるということ、分かりやすく説明していくのか、それとも、ある程度創造都市の枠組みを開放して、アートに偏らないやり方でやっていくのかなど、様々な角度から議論をしている。</p>
<p>野原委員長</p>	<p>○2004年の提言には、市民に向けて創造都市づくりをやりますと書いてあったが、それを具体化するすべが示されていないということなのだと思う。全体の評価の仕組みとして、現状の目標では足りないということなのか等、その辺りがもう少し分析できると、次に向けてのステップになる気がしたので、是非その辺りを検討いただきたい。</p>
<p>菅野委員</p>	<p>○日沼委員もおっしゃっていた通り、次へのステップが必要だと思うが、拠点の事業が庁内でどこまで評価されているかという、こういった事業の意義の見える化が難しいところだとは思う。</p> <p>一方で、拠点のアート界における評価は、これまで一定の評価を得てきた。拠点のあるなし、ビフォー・アフターで考えると、アートの世界においては、拠点ができたことによって、横浜市のプレゼンスは、確実に増したのではないかという評価はできると思う。</p> <p>ただ、同じような事業の繰り返しになってしまうと、やはり広がりや市民への訴求力に欠けることに繋がる。あるいは、その発信力や魅力の部分で、運営者の方々は運営することでいっぱいになってしまい、より開かれた組織の在り方とか市民との協働というところまでたどり着かない傾向があるのかもしれない。</p> <p>またコロナ禍で活動を停滞せざるを得なかったところもある。今、世界中で価値観や考え方が変化し、将来に対して非常に不安定なこの時代において、創造力というキーワードが、世界のキーワードになっている傾向には変わりはないが、それに向かって、地方自治体等がどういうふうに変わっていくべきか、社会全体が変わっていくべきかというのが、突きつけられていると思う。</p> <p>そういったいろいろな文脈において、横浜市での拠点の位置づけは、</p>

	<p>野原委員長</p> <p>遠藤委員</p>	<p>やはり再確認する必要がある。是非庁内で御検討いただければと思う。但し、これまで実績をつくってきたということは、改めてここで申し上げておきたい。</p> <p>○実績で掲げてきた部分と変えていく部分を整理していただくということなので、それはまた改めて議論できる場が用意いただければ。</p> <p>○今の議論に関連して、大きな方向性として、時代に合わせて変えていくことは私も大賛成。市民に対してこれまでやってきたこと、これからやっていくことをどうやって提供していくかということも、とても大事な視点。</p> <p>一方で、委員会は、分科会での評価があつて、分科会の議論を共有していくことがメインだが、そもそも創造都市全体としてやっていることは、分科会で議論されている取組だけではないと思う。委員会では分科会での内容しか見えないから、拠点としてやっていくことと、それ以外のこととのバランスを議論しようと思つても、適切に議論する材料が整っていない気がする。これまでも、市民向けにいろいろ開いたり、サービスをすることを意識した議論や取組をやってきたとは思う。</p> <p>委員会の中でも、これまで、各拠点でできないことを、事務局に対して、創造都市全体としてやってほしいというお願いをしてきた。分科会でやっていることの外側でやっていることも含めての創造都市であり、例えばトリエンナーレやスマートイルミネーションがこういう事業になったとか、全体の中で、どうやって市民に対して創造都市の価値を提供していくのかという議論を、この場でやるのか、違う場なのか、そもそも分からないが、そういう土俵の中で、この分科会が何を守って、何を变えていくのかということの評価できると良い。</p>
	事務局	<p>○我々の一番の悩みは、これまで、走ってきたつもりだったが、政策議論ができてこなかったということは今突きつけられている。これまでの積み上げもたくさんあるので、きちんと肉づけできる座組みを、今、正に検討しているところ。</p>
	野原委員長	<p>○このような話は毎回出てくるが、実際は何も変わっていない状況なので、改めて全体を整理していただき、どういう形があるべきかを逆に御提示いただいた上で、またそれに対して議論できるといいと思つている。</p>
	岡本委員	<p>○創造都市施策を見直すに当たり、変えるべきではないことがあることを踏まえて言うと、拠点の性質上、直接的には一部の人にしか利用していただけないというのは、これはもう拠点の目的からして致し方ない。そうでないと、逆に目標としている効果を上げられないところがある。</p> <p>ただ、物理的、直接的には一部の人しか利用できないかもしれない</p>

	治田委員	<p>が、では一部の人だけのものなのかということでは決してなく、それを通じて、より広い、様々な方の利益になっているはずなのだが、それが伝わっていない、理解されていないということだと思う。そこは前々から問題になっているし、あれこれやっつけていながらうまくいっていないということではあるが、またもう一步踏み込んで、改めて全体と併せて考え直してみる必要があると思う。</p> <p>○この委員会で考えていることも含めてもう1回見直すということは、折々に共有されてはいるが、全体としてどういうスケジュール感か、どういうプロセスで確立していくのか、どのタイミングで委員会にフィードバックを求められるのか、求められないのか、そこが明確でないと感じる。</p> <p>創造都市という横浜市の政策に、民間がどう関わっていくかという議論の中で、民間としてやっていきたいことと、行政として突き詰めなければいけないことの役割分担や評価の仕方、目的がぶれるため、議論する中で非常に曖昧なやり取りに終わっているような気がしている。やはりこれだけ積み重ねてきたものをきちんと評価しつつ、本当に何を求めていくのかを、概念も含めて、明確にしていだければと思う。</p> <p>恐らくここにいらっしゃる委員の方々は、皆さんそれに貢献したいと思って参加されていると思うので、そこをもっと効果的に、どうしたらいいのかを考える機会をつくったほうが良いと思った。それが役割だとすれば、だが。そこも教えていただければ。</p>
	六川副委員長	<p>○クリエイティブシティ・ヨコハマの取組には初期からずっと関わっているが、個人的にはよくやっていると思う。限られた市民かもしれないが、市民の力の活用とか参加には非常に寄与しているのかなと。ただ、その部分についてはよく皆さんの議論に出てくるが、広報が足りないと思う。こうすれば市民が参加できる、ということを広報として発信していけば、その辺はある程度補えるのかなと。</p> <p>委員会が分科会の報告会になってしまっていて、時間も限られている中で、それ以上の議論がなかなかないが、時代に合わせて変えていくことはすごく大切だと思っている。THE BAYSの報告を聞いて思ったが、これから関内の環境が大きく変わる。2年後には旧市庁舎街区が完成する。THE BAYSの基本方針を見てみると、日本大通り地区のにぎわい創出を図るとなっているが、日本大通り地区でなく、関内・関外地区に変えていくなど、例えば時代の変化とともに、基本方針も少し変えていく必要があると思う。スポーツタウン構想というのを前から言っているわけで、もっと積極的な行動をしていただくような仕掛けを、この分科会、あるいは委員会でアプローチしていくことも必要だと考える。</p>

	菅野委員	<p>それは各施設にとっても同じこと。時代に合わせて変えていくことが必要。創造都市の取組は、決して悪い取組ではなく、庁内をまとめるには、今、すごくいい機会だと思う。</p> <p>○評価は、具体的に何が変わっていったかが重要。事業の改善に向けた評価というのが、評価の本来の目的なので、具体的に变化したことの見える化を、箇条書きではなく、具体的なポイントとして落とし込み、分かりやすい形で評価ができて、少しずつ進化していることが見える形にしていかなないと、分かりづらさというのはずっと残ってしまうので、評価の在り方や、何を求めるのか、そういったことをもう一度再考する必要があるのでは。</p>
	山口委員	<p>○先ほど六川副委員長がおっしゃったこと、私も本当にそうだと思う。これまで何度も言われてきたが、創造都市として拠点も含めた全体の取組として、何をやろうとして、これまで何をやって、これからどうしようとしているのかという全体の広報がやはり必要とされていると思う。今後、広報案のようなものを是非、市から提案いただければ、私たちも案が出せるかもしれないし、一度そういった試みをやっていたけるとよい。また個人的には、是非、国際広報等もやっていただきたい。</p>
	恵良氏	<p>○全体の政策論も大切だが、まず、今、拠点の事業評価が中心になるので、ここは専門家のお力が非常に重要となる。ただ、委員会の目的は創造界限形成推進のため、創造界限というエリアでの担い手にはアーティスト、クリエイターもいるが、企業、市民もいる。担い手・プレイヤー相互を、どう協働の形に持っていくかという視点での議論は必須である。創造界限はその場所に根づく活動であり、エリアマネジメントに近い概念の側面もある。そのため、大きな政策とは少し違うが、その場所ならではのものを生み出していく仕組みを横浜で行うこと、その意味での創造界限だから、それぞれの町内会等も意識して議論を進めなければならない。</p> <p>その上に、創造都市政策の都市計画的な視点が大切だと思う。できれば、都市計画を超えて、都市経営的な感覚が必要であり、マネジメント概念等も含めた議論をしていく必要がある。全体の都市経営、例えば都心部をどう捉えるか、創造界限は旧都心部だけでいいのか、みなとみらい地区をどう捉え直すのかも含める議論もあるかもしれない。</p> <p>新しく出てきたクリエイターで、そこからビジネスを立ち上げている方々や、アーティストとして成長している方々もいる。そういうエリアの変化や、活動の核になる拠点として、どういう事業が評価されるべきか。それが評価軸の話につながると思う。そのような全体を視野に置いた委員会の在り方を議論されているのであれば、今求めら</p>

	野原委員長	<p>れているこの政策の編集の在り方や発信の手法も選択すべきなので、ある程度広報のプロのノウハウが要るかもしれない。</p> <p>ただ、大きく言えるのは、市民、企業という方々を担い手の中に入れ込む議論が、都市経営や創造界限と言ったときに重要になる。その際、その政策論の核になる文化度や芸術論の話は必須となる。そこをしっかりと事業評価をしていくうえで、全体のフレームの議論が必要となろう。あるいは、こうした場で委員の意見を聞いてみるなどして方向性を整理するのは意味があると思う。今日は非常に幅広い意見が出されているので、是非それをうまく昇華していただきたい。</p> <p>○大きい議論は引き続き行うこととし、まず、本日の審議事項である令和4年度の事業評価について、これによろしいか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p>
	野原委員長	<p>○創造都市施策の方向性については、庁内で検討いただいているので、全体のフレーム再編に関するところは一度整理していただき、その後、議論できる機会を設けていただきたい。</p> <p>また、これも今までずっと言われ続けていることだが、この場が創造界限拠点のための委員会という建付けになっているため、拠点以外のことがこの場で議論できない。しかし、創造都市施策全体の議論がないと、解決できない問題が拠点側にもあるというのが実態だと思うので、全体をもう1回整理し、提示いただいた上で、改めてじっくり議論する場を設けていただきたい。</p> <p>場合によっては、委員会の議論だけでは収まらない気もするので、個別ヒアリングを行うなど、やり方も含め検討いただきたい。ただ、今日はそれを超えた大きな議論があったので、そこも含めて整理いただきたい。</p> <p>拠点で出てきた課題を、拠点以外で解く方法もある気がする。そのため、やはり創造都市政策全体の中で拠点はどういう位置づけで、それ以外の事業や活動も含めた中でどう考えていくかということも併せて考えていただきたい。</p> <p>時代の変化の件に関しても、私自身、THE BAYSの分科会の議長をしているが、他の拠点とは枠組みが全く違い、賃貸借のため、そもそも評価の在り方が異なるのでは、という意見が、分科会では上がってくる。つまり、併走するプレーヤーとともに考えていくことが重要であり、評価という枠組み自身が合っていないという意見である。そういうことも含めて評価の在り方自身も、検討いただきたい。</p> <p>以上、局名が変わったこのタイミングで、1回整理していただき、提示いただく場を設けていただきたい。</p>

	<p>審議事項（2）旧第一銀行横浜支店の運営団体公募について <事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p> <p>2 その他 <事務局から、情報提供が行われた。></p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について、事務連絡が行われた。></p> <p>【閉会】</p>
資 料	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和5年3月8日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和4年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 旧第一銀行横浜支店の運営団体公募について</p>
特記事項	